

かじ  
日本鍛冶学会  
やすらぎ工房  
in 飯舘村



夏頃の本格オープンを目指す飯舘工場で、3月2日・3日に、「日本鍛冶学会」の研修会が行われました。「日本鍛冶学会」は、刃物の生産地である新潟県三条市で昨年発足し、吉金刃物製作所（三条市）の4代目・山本和臣さん（写真中央）が会長を務めています。学会には、三条市、たたら製鉄の技術を継承する島根県雲南市の「鉄の歴史村地域振興事業団」、研ぎや柄づくりなど関連産業の職人なども名を連ねます。この日は飯舘工場の設備を使って、山本会長や、東京都八王子市の佐藤重利刀匠（写真前列右）が実演を行いました。

三条市では、鍛冶技術の継承や伝統産業の振興を目的に、これまで年1回のフォーラムを開いてきましたが、それを後継する取り組みとして「日本鍛冶学会」を立ち上げ、現在は2か月に1回ほどのペースで活動を深めています。

飯舘工場で会員を出迎えた二瓶代表が、「やすらぎ工房」と飯舘村との出会いを紹介すると、山本会長は「福島も飯舘村も元気になっているよと、地元に戻ったらそれぞれPRをしましょう」と会員に呼びかけました。



貴大さんが師事する藤安将平刀匠(左)も会場へ。藤安刀匠は、古刀再現の第一人者として全国に知られる名工で、福島市立子山に鍛刀場を構えています。



福島市三河北町の店舗前で。代表の二瓶信男さん(右)と息子の貴大さん。「やすらぎ工房」は、プロの道具の製作から家庭の刃物の手入れまでを広く手掛けていて、その腕を頼りに遠方から通う常連客もあります。

## 村に鍛冶工房が誕生します

### 旧園舎を活用して「村の鍛冶屋に」

旧草野幼稚園園舎が、鍛冶工房に生まれ変わることになりました。福島市で刃物店を営む「やすらぎ工房」の飯舘工場が誕生します。

代表の二瓶信男さんは、数年前から、息子の貴大さんと共に、新たな工房の候補地を探していました。「あちこち足を運びましたが、心底話を聞いてくれたのは飯舘村だけでした。鋸鍛冶だった先代の親父は、丁寧に真剣に「がモツト」で、今までにやれどよく言われたものです。飯舘村が「ままでの村」と聞いて、親父の言葉を思い出しました」。信男さんは「村の鍛冶屋になれるようがんばりたい」と笑顔を見せました。

息子の貴大さんは、信男さんの頼もしい右腕。貴大さんが立ち上げた工房のHPでは海外からの注文も伸びています。「研ぐなど道具の手入れをして長く使う海外の地域でも、より質のいいものが求められていると感じます」。

### まっすぐで奥深い職人の世界

貴大さんは、大学卒業後、県外の自動車部品製造会社に就職しましたが、家業を継ぐ決意で福島に戻って来ました。信男さんは「震災も一つのきっかけだったのかも」と言いながら「うれしかったですね。張り合いが全然違います」としみじみ。父の仕事を見て育った貴大さんの成長は著しく、全工程を一貫して行う新潟県三条市の工房で修行をしたり、福島市立子山の刀匠の元で刀鍛冶を学んだり、意欲的に技術を高めています。包丁類と刀とでは製法がまるで異なるそうですが、「歴史や文化、日本人の心を学びたい」と言います。信男さんは「職人は難しければ難しいほど、その奥を見てみたいと思ってしまう。人からは見えない部分に手を掛けますから、いい暮らしはできない訳です。すよね」と笑いました。

飯舘工場は生産拠点となりますが、「将来的には体験講座やギャラリーも開きたい」と、2人の夢はふくらみます。